

神社の杜(五十四)

「御朱印は語る、ずいぶん遠くから来たもんだ」

片柳 茂生

今、世は御朱印ブームの真つただ中。このブームの発端は確か「朱印女子」と呼ばれる人達だったでしょうか。今では女子だけでなく男性も含め、多くの人が御朱印を求めて参拝に訪れます。また、そのような参拝者に応えるように、趣向を凝らした御朱印を用意する神社や寺院も見られます。当社でも特別な御朱印として毎月十五日には奥宮、大口真神社は年三回(一月三日、五月十五日、九月二十九日)の祭礼の日に御朱印を用意しています。

そもそも御朱印とは何なのでしょう。一説によると、「神社や寺院において、主に参拝者向けに押印される印章、およびその印影である」とされ、遅くとも室町時代末期にはあつたようです。その御朱印について、昨年ある出来事がありました。

平成から令和へと改元されて間もない六月、二人のご老人が遠く秋田県から当社を訪れました。でもただの参拝ではありませんでした。その方は佐々木俊治さんという古い朱印帖を開き、「此の御朱印の神社は武蔵御嶽神社で間違いないませんか?」と尋ねられました。朱印に書かれている文字は《武蔵国號神社・東国社櫻惣社・勅願所・御嶽山御宮 廣前 正中所》。日付

は《文政二年三月八日 大宮司役人》二百年前に当社で書かれた物で間違いなさそうです。(ただ一つ気になるのは、この時代一般には、まだ金峯山御嶽蔵王権現と称していたと思うのですが・・・)。このお二人、ご先祖様の集めた御朱帳に書かれている神社や寺院を巡っているそうです。伺ってみると、このご先祖は只者じゃあ無かった。何でも御朱印帖は三冊あり、一冊目は文化十年七月から文化十四年三月まで四国八十八カ所を巡つたもの。二冊目は文化十四年八月から文政二年八月、三冊目は文政二年八月から文政六年七月まで。三冊合計で掛つた年数はなんと十年。廻つた地域は、四国を除き、南は静岡から北は地元秋田のすぐ上の青森県まで一都十五県、参拝した神社と寺院は、四国八十八カ所を除いて二百六十三にも及びます。今のように電車や車のない時代、自分の足だけが頼りで集めた朱印、しかも平地に建つ社寺だけではありません。当社を始め高尾山薬王院、三峰神社、筑波山神社、榛名山神社、大山阿夫利神社と関東平野を取り巻く山の名だたる神社仏閣、そしてなんと長野県の戸隠神社や富士山五合目に

鎮座する小御嶽神社、さらには佐渡島の神社にも参拝してらんですよ!あの時代にこれだけの神社仏閣を廻るんだからすごい事ですよ。

たまたま巡り会えた当社社の二百年前の御朱印、これを大事に保管していた佐々木さんに会えたこと、大変ありがたいと思うと同時に、我々の今書いている御朱印が残ることの恐ろしさ、さあ、練習練習。



文政2年の御嶽神社朱印



佐々木俊治氏所蔵の文化・文政年間の朱印帳

あ と が き

暖かく好天が続く中でお正月を迎える事ができ、良い一年のスタートになるかと思いましたが、オーストラリアの山林火災やコロナウイルスの伝染拡大など日本を始め世界各地で起る災害などで出鼻をくじかれた感があります。ここに被害に遭われた方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

ここ近年の地球規模での環境の変化や異常気象に戸惑い不安がつのる中で春を迎え、今年の作柄や経済の行方が気になることも多いと思いますが、年末には良い一年だったと思えるような年になるようお祈り申し上げます。

最後に、この半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力・御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様、厚く御礼申し上げます。また、文化財保護指導員 小島みどり様、写真家 鶴巻育子様、玉稿を有難うございました。

令和二年 三月三十一日発行

〔年二回発行・非売品〕

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四二八(七八) 八五〇〇
FAX 〇四二八(七八) 九七四一

http://www.musashimitakejinja.jp/

印刷 楸成和印刷